

2019年2月20日
 千代田化工建設株式会社
 IR・広報・CSR部

2019年3月期 第3四半期決算・電話会議での質疑応答（2019年2月13日発表）

2019年2月13日に開催した、証券アナリスト・機関投資家向け決算説明電話会議において、出席者の皆様からいただいた主なご質問と、当社の回答を以下にまとめております。

質問

回答

2019年3月期・第3四半期実績について

キャメロンLNGの追加コストを顧客から回収する計画というが、原因が第2四半期同様に労働者人件費の高騰、生産性の低さだとしたら、何故今回は回収できると考えているのか。	労働者人件費の高騰、生産性の低さに起因するという点では第2四半期に計上した追加コストと大きく異なるものではないが、ここまでの労働市場環境の激変は、コントラクターにとって統制しきれない事象であるとして、早期完工インセンティブという形で客先にも応分の負担を要請している。交渉次第であるが、回収できると考えている。
キャメロンLNGの第1系列の完成予定時期はJVパートナーのマクダーモットの発表通り2019年4-6月頃と考えてよいか。	その理解で正しい。
キャメロンLNGで第3四半期に認識した追加コスト額はJVパートナーのマクダーモットと合意したものか。	合意している。

バランスシートについて

第3四半期会計期間で増えた工事損失引当金が、今回のキャメロンLNG等の追加コストに等しいということか。	工事損失引当金の増加が今回の追加コストによるものであることは事実である。
第2、第3四半期で比べたとき、現金預金、完成工事未収入金、未収入金、ジョイントベンチャー持分資産等の残高が大きく変動している理由は何か。	現金預金とジョイントベンチャー持分資産の減少は遂行中大型案件の進捗、完成工事未収入金の増加はヤマルLNGの完工、未収入金の増加は主にイクシスLNGにおける立替払の増加による。
今期末の現金預金残高予想はどれくらいか。	新規受注プロジェクトの前受金等もあり、オペレーションに支障の出ないよう現金預金残高には注意している。

今後に向けた計画関連

通期予想が未達となるリスクはあるか。	顧客との交渉ではあるが、通期予想を達成するために第3四半期に計上した追加コストの回収に努力していく。
要請している財務支援の規模は今年度の損失を埋める程度なのか、もしくはそれ以降の将来まで見越した額なのか。	現時点では詳細は説明出来ないが、中期経営計画見直し説明の際に開示した資料をイメージしてほしい。

以上

この資料には、本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。従いまして、この業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。